



HAKUBA H.S. Report Channel

白馬高校レポートチャンネル



令和8年 8月5日 (第202号)

発行：白馬高校 教務係

TEL 0261 (72) 2034 (代表)

第14回 観高サミット が開催されました。(幹事校：白馬高校)

全国の高校で「観光」を学んでいる高校生の有志50名ほどが7/30, 7/31の2日間、白馬を訪れました。北海道のニセコ、東京、栃木、宮城、石川、岐阜、鳥取、愛知、群馬、県内の学校から集まった生徒と本校の生徒(有志で9名)がそれぞれの地元で抱える観光に関する課題について考えました。事前課題として、観光のインバウンド、環境保全、自然の良さを生かしたビジネス開発、大規模イベント誘致、まちづくり等について考える共通の動画を視聴してもらい、当日はグループごとに意見を発表し合いました。1～4班は「大規模イベント・インバウンド誘致についてどう思うか」、5班～8班は「観光とまちづくりについてどう思うか」というテーマで考えを深めていきました。

初日は、1998年冬季オリンピック会場となったジャンプ台を全員で見学した後、白馬高校生が先導して村を案内し、諏訪神社と民宿発祥の碑を訪れ、実際に民宿を営まれる笹川さんと山口さんのお話を現地で聞かせていただきました。会場となった八方文化会館では㈱ズクトチエの太田共同代表が地域に眠っている宝物をビジネスに繋げて地域に貢献された話、白馬村観光局の福島局長は国内のスキー客が減る中でオーストラリアの旅行会社と共にインバウンド勧誘をされた話、インバウンド宿泊業を代表したグオジョンさんは高校生に向けて自身の意志を強く持って道を切り開くように、地元の歴史に詳しい宮田先生は地元の農家が副業として民泊を始めた話をしてくださいました。それぞれの仕事の視点から白馬村の観光に関して今考えていること、これからの白馬のことを、MICE、環境保全、開発、インバウンドと地元住民の共存などの観点で話していただきました。現場の声や空気感に触れ、生徒からも活発な質問がいくつも出ました。参加した生徒は一同に丸金旅館さんで宿泊し、2日目は白馬村長に講話いただいた後、各班で「事前学習で感じたこと、前日のフィールドワークまとめ、地域の人の話を聞いて感じたこと」の発表を行いました。発表後はグループを組み換え、「持続可能な観光地とは？」というテーマで各自の立場でディスカッションを行い、模造紙とペンで意見をまとめました。短時間で自分の意見をまとめてグループで話しあい、その場で聴衆に向けて発表している生徒の姿は逞しく、これからが楽しみです。



学校運営協議会(7/4)・中学生向け体験入学(7/25)

文化祭が行われた 7/4(土)に白馬村役場で学校運営協議会が行われました。本校の「探究」の授業でご協力いただいている地域の方(白馬村役場住民課の太田様、白馬村観光局の吉沢様、白馬シェア代表の田中様)をゲストスピーカーとしてお迎えし、本校の課題や、地域の方とより連携を深めるためにはどうしたら良いか等、温かい意見交換会が行われました。7/25(土)は全国から集まった中学生と保護者に本校の授業(一部、野外授業)の体験、寮見学をしていただきました。